

住職の佛教史 浄土真宗(1)

親鸞は九歳で出家 比叡山のぼつた 夢で二十年余り
修行に務めたが悟りを得られず 二十九歳の時山を
下りて京の六角堂に百日間参籠を行った

九十五日目に觀世音菩薩が表れて

行者が前世の報で女犯するなら

わたしが美女の身になつて 犯されよう

一生涯を美しくまつとうさせ

臨終のときは極樂に導こうし 七つ偈を受

けたという 親鸞はもの朝法然のもとにおもむき

たとえ法然にだまされても地獄に落ちても後悔しないと

いう決意で専修念佛に帰依することになる

法然のもとで念佛の教えを受け 教団の発展に力を

そそいだが法然が土佐に流罪となった時 親鸞も

同じく還俗させられて越後に流された

越後での親鸞は豪族の娘 惠信尼と結婚し

六人の子女をもうけた

次回は越後から関東へ布教をして京に戻る途についで

記します

住職の佛教史

浄土真宗 (1)

親鸞は九歳で出家、比叡山にのぼった。

そこで二十年余り修行に務めたが悟りを得られず、二十九歳の時、山を降りて京の六角堂に百日間参籠を行った。九十五日目に觀世音菩薩が現れて

「行者が前世の報いで女犯するなら、

私が美女の身になって犯されよう。

一生涯を美しくまっとうさせ、

臨終の時は、極樂に導こう」

という偈を受けたという。

親鸞はその朝、法然のもとにおもむき、たとえ法然にだまされても、地獄に落ちても後悔しないという決意で専修念仏に帰依することに。法然のもとで念佛の教えを受け教団の発展に力をそそいだが、法然が土佐に流罪になった時、親鸞も同じく還俗させられて越後に流された。越後での親鸞は、豪族の娘、恵信尼と結婚し、六人の子女をもうけた。

次回は、越後から関東へ布教、そして京に戻るまでについて記します。